



3月は「卒業」の季節。

僕が20数年勤めた前職の会社を辞めて丸6年経ちます。

たまに退職なんかも「卒業」という表現をして辞められる方がいらっしやいますが、

僕はそんな恰好いものではなく、どちらかという「落第」だったかもしれません。(*_*)

それでも大切な経験をさせていただいたと今も前職の会社には感謝しています。

何も知らない生意気な若者を**しっかり叱ってくれる上司や先輩**がいたからです。

厳しいお客様にも育てていただいた思いがあります。

ただ、自分が管理職になってからの部下の育成については悪戦苦闘。

職場における部下の将来性に可能性を見出せなくて、退職を引き留めることもできなかったこともあります。

僕が退職することになった時、それを知った10年近く前に退職した元部下からメールをもらいました。

そのメールは、その後の僕の心の糧になりました。



退職されますことを、〇〇〇から聞きました。

僭越ながら、これまでのお礼を兼ねましてメールさせていただきます。

◇◇◇◇◇時代には大変お世話になりました。

個性的な人材ばかりのシステム技術課で、いろいろご苦労されていたことでしょう。

私も年を取り、部下を持つ立場も経験しました。人の上に立つことで初めて見える景色や、それまで気にしなくて良かったことが非常に大事なことに気づかされました。

今だからわかる。

でも、その当時は叱っていただいても何もわからず、すべて会社のせい、上司のせいにしていたような気がします。

そんな手に負えない若造を、よくも我慢して使ってくださいました。

おかげさまで、他の社員では経験できない、多くの経験をさせていただくことができました。

そして、あの経験があったからこそ、今の仕事に就くことができていると思います。

<以下略>



僕はこのメールを読んだ時、嬉しさの一方で驚きました。

だって正直、箸にも棒にも掛からないと諦めてダメ出しをした若者でした。

でも、なんのことはない。彼は変わったのです。

結局のところ、叱ることを諦めた僕がいたらなかっただけのこと。

彼に対して他にやりようがなかったのかという自責の念とともに、**人は変わるのだ**ということを知り、認識させられた出来事でした。

先日のこと、僕が独立開業して以来、お世話になった先輩のお通夜がありました。

僕にとって良いことも悪いこともはっきり言ってくれる方でした。

お通夜で優しい遺影を見たときも、棺に納められている眠っているような顔を見たときも、

泣いておられる遺族の方や親しい友人たちの涙を見た時も、何とか我慢できました。(たぶん・(>_<))

でもその翌日、所用で搭乗した飛行機の機内放送で卒業ソング特集を不意に耳にしたときのこと。

いい歳をしたおっさんがこんな場所で・・・なーんて考える間もなく、撃沈・・・。(T T)



人ごみに流されて
変わっていく私を
あなたは
ときどき
遠くで
しかって

「卒業写真」
作詞・作曲：荒井由実



ああ僕は、叱っていただけの大切な方をまた一人失ってしまいました。

CAさんには変なおじさんと思われたかもしれませんね。